

源流の四季

第2号 夏



Summer

発行所 / 多摩川源流研究所 山梨県北都留郡小菅村4383

TEL・FAX 0428 (87) 7055

発行責任者 / 中村文明

協力 / 多摩川源流観察会

印刷 / (株)サンエチ印刷



奥多摩町鳩ノ巣沢谷

Contents 目次

源流の夏.....	2・3
源流へのメッセージ.....	4・5
研究所設立記念式典・源流体験教室.....	6・7
「源流古道・水源林体験の旅」のご案内.....	8

源流の夏

急峻な山々から谷を渡る風が清涼感を増す源流の夏。
地球の歴史を刻んだ大きな岩を縫って流れる物岳溪谷。
美しい丹波溪谷を流れ下る清流が岩盤を洗う景勝地ナメト口。
一瀬川に注ぎ込む竜喰谷との協奏曲を奏でる竜喰出合い滝。
絶壁に寄り添いながら深き緑の中を流れる小菅川の蛇石。



奥多摩町・物岳溪谷



丹波溪谷・ナメト口

森林・生態系の
着実な調査を

多摩川源流研究所設立記念式典



記念講演する高橋先生(2001年4月8日)

東京大学名誉教授
高橋 裕

研究所設立記念式典における高橋先生の記念講演の一部を紹介します。

20世紀は、沖積平野の時代、つまり下流の時代でした。それに輪をかけたのは、高度成長時代です。都市と農山村との関係は一層希薄になってきた。高度成長期も、下流に重点をおく政策をやってきた。都市に人口があつまりました。高度成長を成し遂げたんですけれどね。一方、上流をどのように国は考えたか、あるいは学者は考えたか、それは反省すべきであろうと思えました。上流の森林を保全し、過疎調査をちゃんとやらなければ、下流に異変がおこるんですよ。

上流の役割というものをよく考えて、森林の状況、森林の保全状況、あるいはそこにいる生態系というものを着実に観察をし、記録に残す、それ自体がね、これからは流域全体における貴重な情報になっている。それを多摩川の中流、下流の方々に提供する。ときどき、下流の方と懇談する機会を設ける。お互いの立場を情報をだしあつてね。

多摩川を本当によくするためには、源流はどういう役割をになうか。何よりもまず調べるといふことですね。この動物、昆虫、魚の状況を調べて、それがどう変化していくか、着実に観察し、記録する。そして、それを下流に提供する。下流は下流で、下流の立場を調査して、互いに多摩川というものの情報を交換し合う。そういう発信基地にする。そして、こういう方法論は多摩川だけでなく、他の川の源流の役割にも影響を与えるはずですよ。

しかし、こうしたかけがえない資源は、個々の自治体での活用がなされているレベルで、流域共通の財産としての認識、活用はまさにこれからという状況であると感じています。

そうした中で、多摩川源流研究所は、個々の自治体の垣根を飛び越え、流域全体を見据えた具体的な取組みが計画されており、豊富な資源の掘り起こしをはじめ、多くの人々と共に夢と希望あふれる多摩川をめざした事業が展開されることと思います。「多摩川源流研究所」の発足を大歓迎し、実りある成果を心から期待しています。

多摩川源流研究所
に期待する



国土交通省
京浜工事事務所長
高野 匡裕

21世紀を迎えた記念すべき年に、地域の大きな期待の下、多摩川源流研究所が設立され、順調に活動を開始されたことをお喜び申し上げます。初夏を迎え河原に響き渡る多くの子供達の歓声を聞くにつけ、

豊かな恵みの川である多摩川を将来にわたり残していこうよという叫びに感じられます。

川の流れば、雨から始まる水の流れの収束であり、その過程で流域の自然や社会活動の状況を反映していきます。流域の健全度のバロメーターといえます。沿川の先鋭的な都市化の中で多摩川の流れを支えてきた源流の役割は大きなものがあり、今後の多摩川を支える大きな力でもあります。研究所の御活躍

百周年を迎える
東京水道水源林



東京都水道局
水源管理事務所長
松田 恵一

小菅村の皆様方には、常日頃、東京都の水道水源林の管理や小河内貯水池の水質保全など、多くの面で大変なご協力を頂き、心より感謝申し上げます。さて、東京都の水道水源林は一九〇一年、小菅村などにあった御料林を譲り受け、管理を始めてから、今年で百年を迎えます。水道水源林の目的は、小河内

により、このような源流域の役割が流域全体の中でより広く理解され、源流域のすばらしい自然とこれを培ってきた地域の人々の努力に多くの市民の共感を呼ぶことでしょうか。

全国でも例を見ない広範な市民レベルの活動が展開されているこの多摩川において、源流域にさらに意欲的な活動が広がることを期待しますとともに、力を合わせて21世紀の川づくり、流域づくりを進めていきたいと思います。

貯水池への流入量を平均化し、流入する土砂を減らし、水質を良好に保つことにあります。小河内貯水池がいまもって良好に保たれているのは、地元の方々のご努力やご協力のもとに、百年にわたって水源林を管理してこられたからにはかなりません。先般、東京都では、この水道水源林を対象に、環境に関する国際規格であるISO14001の認証を取得いたしました。これにより、環境保全対策を一層充実させていきたいと考えております。今後の源流研究所の活動によりまして、環境の保全と地域づくりが調和した、すばらしい成果が得られますこと、そして小菅村がますます発展されますことを心より祈念しております。

盛大に源流研究所設立記念式典開催

源流の魅力、価値、可能性を探求しようと4月8日、小菅村中央公民館で、多摩川源流研究所設立記念式典が地元を始め各界から200名の参加者を得て盛大に開催されました。当日は、記念式典に続いて高橋裕先生による「新しい世紀と源流の役割」と題した記念講演と第1回全国源流シンポジウムが開かれました。

新しい価値と可能性を

会場に響き渡る勇壮な大菩薩御光太鼓で開幕した式典では、主催者を代表して廣瀬文夫小菅村長があいさつし、山梨県知事



多摩川源流研究所設立記念式典（2001年4月8日）

また、岩井先生から、「川づくりと地域づくりは私のライフワークだ。来賓と言うより仲間の人として源流にメッセージを送りたい。21世紀は感性やリズムが大切になる。お互いに哲学を勉強し人間と自然とが響き合える関係を作りたい。源流研究所を中核にして様々な交流が

（代理）、岩井国臣参議院議員、高野匡裕国土交通省京浜工事事務所長の3名が、祝辞を述べました。廣瀬村長は、研究所設立にあたり各界の方々の献身的な指導に感謝を述べて「21世紀は、水と緑、環境と教育に新しい価値と可能性を求めるとなる。源流の美しい自然と素朴な人間性がかげがえのない価値となる時が必ず到来すると確信する。源流と流域との交流が益々盛んになることを期待します。」と挨拶しました。

開始される。全国にも大きな刺激と影響を与えるでしょう。」と力強い祝辞を頂きました。

源流は新世紀の財産

続いて記念式典では、山道省三プロジェクト委員会代表が研究所設立の経過報告を行い、研究所の懇談会委員、運営委員が紹介されました。運営委員会を代表して宮林茂幸運営委員長が「源流域の自然や文化は21世紀の財産である。その財産を継承



テレビ局の取材を受ける参加者

最後に、研究所の事務局が紹介されました。中村文明所長、佐藤英敏事務局長、青柳諭、加藤源久事務局員、井村礼忠主任研究員を代表して、中村所長は、源流研究所の設立にご尽力頂いた方々にお礼と感謝を述べ、「源流は、多様な動植物が生息する自然の宝庫である。一帯には、

全国源流シンポジウム



熱い思いを語り合った全国源流シンポジウム

シンポジウムでは、この活動を継続しようと次回は、奈良県の川上村で第2回源流シンポジウムを開催することを申し合わせました。

第1回全国源流シンポジウムは、「全国源流自慢！源流の魅力を語る」をテーマに北海道十勝川水系から帯広市の千葉よう子氏、奈良県吉野川水系から川上村役場の坂口泰一氏、大分県大野川水系から九州の河童、幸野敏治氏の3名と、多摩川の源流に特別の思いを寄せる田中喜美子氏、三谷益巳氏、中村文明所長の合計6名のパネラーを迎え、全国水環境交流会事務局長の山道省三氏をコーディネーターとして、それぞれが、源流への熱い思いとユニークな活動を報告し合いました。

発展させてこそ未来社会が創造されるでしょう。多摩川源流文化の発展にお役に立ちたい。」と今後の抱負を述べました。最後に、研究所の事務局が紹介されました。中村文明所長、佐藤英敏事務局長、青柳諭、加藤源久事務局員、井村礼忠主任研究員を代表して、中村所長は、源流研究所の設立にご尽力頂いた方々にお礼と感謝を述べ、「源流は、多様な動植物が生息する自然の宝庫である。一帯には、

広大な都水源涵養林が広がっている。明治34年以来100年の歴史を刻んでいる。首都圏のすぐ隣りにこれほどの自然が残されたことは、奇跡に近い。この自然を保全し継承するため、調査研究し、源流文化の発信を通して、源流と流域との交流を活性化し、自然環境と調和のとれた源流域の里づくりにお役に立ちたい。」と今後への決意を語りました。

源流体験教室を開催

世田谷の親子60人 自然を満喫。

水や空気がおいしかった！



4年生は 好奇心のかたまり

3月25日(日)世田谷区の瀬田小学校4年生の親子60人が、多摩川源流体験に訪れました。一行は、ヤマメ料理に舌鼓をうち、雄滝周辺の散策と竹鉄砲作りの体験を楽しみ、源流の村・小菅を満喫し「また小菅にきたい」と感想を述べ元気に帰っていきました。

当日は、午前10時過ぎに小菅村に到着した一行は、温泉の駐車場から山沢地区を歩いて通学路を下り、池ノ尻地区の旅館に向かいました。途中、によこによこと顔をのぞかせるふきのとうに大喜びであちこち探し回っていました。



シオジの幹の太さはいくらかな？(3月25日)

昼食の時間には、ヤマメの塩焼きと山菜のてんぷらのおかずが満ちたようでした。残らず平らげました。「ふきのとうはおいしかった？」と尋ねると、「おいしい」と元気な返事が返って



ゆうゆうクラブの指導を受け竹鉄砲作りに挑戦

きました。「初めて食べた人」と聞くと、18人中13人が手を挙げました。子供たちは、初物が入ったようでした。

源流の水 美味しかった

昼食後、2班に分かれて源流体験に向かいました。雄滝周辺の残雪に驚いた様子でしたが、シオジの巨木の幹の太さを当てるゲームに挑み、両手を広げて幹を一周し真剣に計算していました。雄滝に向かう途中の一本橋では、足取りがゆっくりになり、体を丸くして緊張しながら渡る子供の姿も見られました。

すべてが 新鮮でした

当日参加された保護者の感想をいくつか紹介します。

★想像も出来ない風景や道を歩いて、とても疲れましたが、気持ちの良いものです。澄みきった空気、流れの音、全てが新鮮でした。ありがたうございました。

★雪が残り、すがすがしい山道を歩き、実際に源流が上がっていくことが出来、有意義でした。雄滝まで行き、冷たくて美味しい水を飲むことが一番印象に残りました。

★少し歩きづらいところもあつ

たい流れに手を入れて、「水温は7度だ」「僕は2度だ」と思うような思い思いに体温を出し合っていました。ちなみに、水温は4度でした。目の前を流れる清流を両手ですくって飲む光景があちこちで見られ、「美味しい」という歓声が上がっていました。

水の館では、ゆうゆうクラブの指導を受け、親子で竹鉄砲を作りました。ウツギの芯をくり抜いて弾をつくり、弾を込めて打つと、ポーンと景気良く音をたてて飛んだときの子供の笑顔が大変印象的でした。

たが、ガイドの方の説明も良かったです。今度は、家族で来たいと思います。源流の水を飲んで美味しかったです。

源流体験教室の ご案内

自然体験や生活体験の充実が求められている昨今、多摩川源流研究所では、自然と親しみ、自然とふれあう中で、豊かな心と生きる力を育んでいく源流体験教室を目指しています。学校教育や生涯学習、育成会活動、企業研修などで、取り組んでみませんか。

是非、ご検討ください。

源流古道水源林体験の旅のご案内

「水源林百周年記念事業」

多摩川源流研究所と「源流古道・水源林体験の旅」を支える会は、「源流古道・水源林体験の旅」を企画

画 8月1日から6日までの予定で、松姫峠→大菩薩峠→柳沢峠→笠取山→持監峠→雲取山を走破

する水源林100周年記念事業を企画して、今参加者を募集しています。
百年に回のイベントにあなたも友人をさそって参加してみませんか。

参加者募集

参加者を募集しています。それぞれの区間は5〜6時間のコースになっています。A、B、Cの3コースに分かれていますので無理のない山旅を計画できます。

交流と親睦の旅

全コースに源流研究所のインストラクターがご供します。源流と流域の交流と親睦の旅です。21世紀の記念にしませんか。宿泊費は、山小屋の場合約8千円です。

参加申込み

小菅村に申込用紙がありますので電話かファックスでお申し込みください。なお、各コースで定員が決まっていますので先着順とさせていただきます。申し込みの締め切りは7月25日です。持ち物は、洗面用具、タオル着替え、雨具、健康保険証(コピー)など必要と思われるもの。

申込先 小菅村役場 佐藤 0428(87)011



大菩薩峠の富士



源流古道・水源林体験の旅のコース

大盛況の「多摩川源流展」

多摩川源流展が6月7日から12日までの6日間、世田谷区高島屋SCで開催され、連日大勢の市民が詰めかけ、大盛況でした。源流展は、中村所長が撮影した「知られざる源流の四季」をテーマにした源流写真展や源流ジオラマ、下流の魚などが展示されました。

源流展は、水源林百周年を記念して高島屋SCの好意で開催されました。ご支援ありがとうございました。

